

『主体的に人と関わり、自己の生き方を見つめ、考える修学旅行をもとめて』

愛知県江南市立古知野中学校

I はじめに ～古知野中学校の概要～

1 学校の沿革

1947（昭和22）年4月1日、愛知県丹羽郡古知野町立高等実践女学校内に本部を置き、古知野町立古知野中学校として創立。校舎・運動場は昭和22年8月から着工・整備され、24年10月に完成した。

昭和29年6月1日、江南市発足にともない、市立中学校となる。体育館は1967（昭和42）年3月9日、プールは昭和49年に完成。1982（昭和57）年4月1日に西部中学校が分離・新設。

2 学校の現況

本年61年目を迎え、現在の学級数は、26学級〔特別支援学級3（院内学級1を含む）〕、生徒数は男子466名、女子390名の計856名。

3 教育目標

<本校の目標>

希望に燃え、生きる喜びを感じ、自主自立の精神で、思いやりをもって主体的にたくましく生き抜く、心豊かな国際人としてふさわしい生徒の育成を図る。

<校 訓>

○誠実（徳）

礼節を重んじ、思いやりと協力・奉仕の精神に富み、責任感の強い生徒

○創造（知）

確かな学力を身につけ、創意工夫する生徒

○剛健（体）

心身を鍛練し、忍耐力に富み、勤労を愛する生徒

<経 営 方 針>

よい生徒は

よい学校で育つ

よい学校とは

教育環境の整った

学校である

その決め手は

教師である

4 本年度の重点努力目標

「互いの考えをよりよく伝え合うことができる生徒の育成」

～話す活動・聞く活動の工夫と充実～

・生徒の「確かな考え・確かな声」を求めて、「書に学ぶ」「人に学ぶ」「体験に学ぶ」活動に重点を置き、「体を動かし」「頭で考え」「心で感じる」ことのできる生徒を育成し、生き甲斐と目標のある生活のできる生徒の育成を目指す。

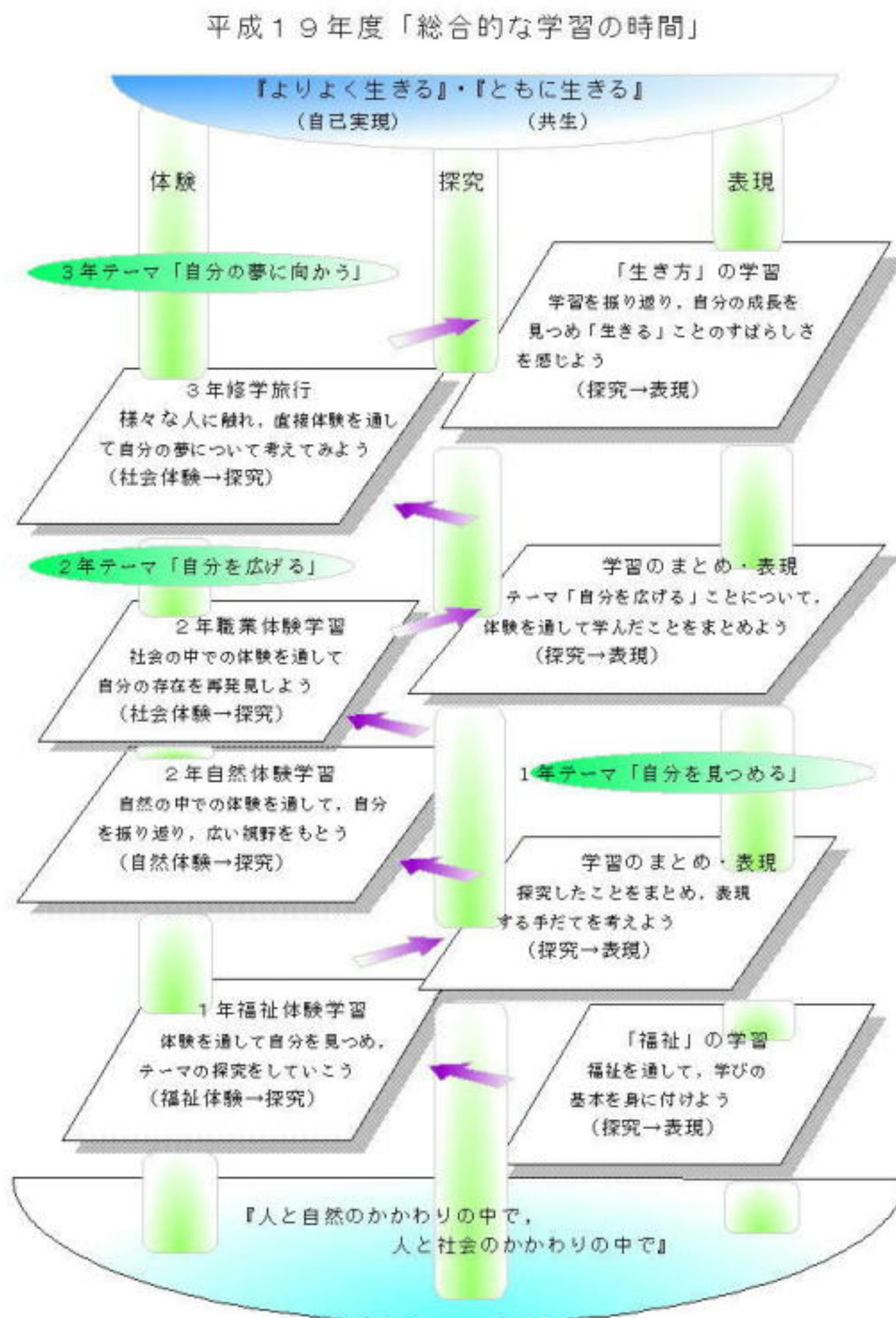
5 本校の修学旅行

昭和27年より関東方面へ3年間。30年度からは京都・奈良方面へ。昭和48年まで継

続。昭和45年度は大阪万博も見学。昭和49年度より再度関東方面に変わり現在に至っている。

Ⅱ 2007年度の実践

1 修学旅行の位置づけ



本校では、総合的な学習の時間を、問題解決能力（自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力）の育成と自己の生き方を考える時間と位置づけている。そして、各学年のテーマを

1年生：「自分を見つめる」

→「福祉」をテーマとした、より自己理解を深める活動

2年生：「自分を広げる」

→「自然体験」「職業体験」で、自分の可能性を探る活動

3年生：「自分の夢に向かう」

→「修学旅行」「進路選択」で自分の生き方を見通す活動

と設定し、体験の工夫・充実を通して、気づき・学びを表現・探求する中で、よりよい生き方や共生ができる生徒を育成しようと考えている。

修学旅行についても、将来の進路選択に役立てる場としてとらえ、班別行動などにおいて社会や働く人々に接する機会を与えている。また、日ごろ学校生活で身につけた力を場所を変えて実践する場としてとらえている。その中で、自己を見つめ、生き方を考えることのできるよう計画実践に努めている。

2 修学旅行のねらい

- (1) 首都東京を見聞し、社会への視野を広め、社会との関わりを通して平素の学習・生活を確かめる。
- (2) 修学旅行での体験や集団宿泊生活を通して、規律や協力の大切さを学び、社会的公德心を培うと共に、生徒間及び先生との交流を深める。
- (3) 1・2年生での取り組み・成果を生かし、3年間のまとめとする。

3 計画立案にあたっての学年担当職員の考え方（学年会より）

- (1) 修学旅行での体験を通して、学校生活では気づくことのできない物の見方、考え方、生き方にふれさせる。
- (2) 「学年みんなでできる活動」、「学級で行う活動」、「グループで行う活動」などを工夫させ、活動を充実させる。心を豊かにする活動として鑑賞を取り入れる。
- (3) 自分の力で目的・テーマを掲げ、小グループで班別行動を行う。基本は、午前1か所、午後1か所。そこでは、ただ見るだけではなくて、できるだけ人に接して、ふれあいや体験などを通して、テーマに迫る活動をする。
- (4) 修学旅行における準備・当日・まとめの活動を通して、一人一人が役割を持ち、活躍の場が持てるようにし、集団の中での存在感・成就感を得ることのできる修学旅行にする。

4 日程について

1日目＜6月26日（火）＞

学校（グラウンドにて出発式）→（バス）→岐阜羽島駅→（ひかり402号）→
6:50 7:30 8:15 8:45

東京駅→（地下鉄丸の内線）→議員会館→国会見学→（バス）→学級別行動→
10:43 11:30（昼食） 14:00

→（バス）→月島もんじゃストリート→（バス）→旅館つたや（泊）
18:00（夕食） 20:00

2日目＜6月27日（水）＞

旅館つたや→東京都内班別行動→浅草雷5656会館→演芸鑑賞→（バス）→
（朝食）8:30（昼食） 17:00（夕食） 18:00

→オリエンタルホテル東京ベイ（泊）
20:30

3日目＜6月28日（木）＞

オリエンタルホテル東京ベイ→新浦安駅→（JR京葉線）→舞浜駅→
（朝食） 7:50

→東京ディズニーランド→舞浜駅→（JR京葉線）→東京駅→（ひかり381号）→
9:00（昼食） 16:36（軽食）

→岐阜羽島駅→（バス）→学校（体育館にて到着式後、解散）
18:37 19:35

5 ねらいを実現するための取り組み

（1）東京についての事前学習

社会科2年生に「都道府県の調査」の単元がある。本格的な活動のスタートに当たって次の三つのねらいを持って、五つの調べ学習を行った。

- ① 修学旅行に向けての意欲づけとする。
- ② 計画立案に必要な東京の基礎知識を身につける。

③ 班計画に向けて、個人で学習する習慣づけを図る。

- ・PART 1『愛知と東京』：愛知と東京を比較する。
- ・PART 2『東京23区を知ろう』：白地図に名前を記入する。
- ・PART 3『JRを知ろう』：白地図に山手線の駅名を記入する。
- ・PART 4『地下鉄を知ろう』：路線図に地下鉄駅名を記入する。
- ・PART 5『観光地ポイントを知ろう』：地図にポイントを記入する。

(2) 学年集会と修学旅行ビデオ鑑賞

2年生1月、修学旅行の活動スタートにあたって、先輩たちの修学旅行の様子と東京の名所旧跡の紹介ビデオの鑑賞を行った。生徒たちは、東京について身近に感じ、修学旅行への興味・関心を高めていった。

(3) 班別モデルプランの作成

2年生3学期に東京班別活動の学習手順を知るためモデルプランの作成を行った。

- ① 一人一つ以上の見学候補地をガイドブック・資料等を調べ、班員に紹介する。
- ② 学級6班で見学地の性格から見て、公共・文化・産業の中からテーマを決める。
- ③ 候補地の中から班で話し合い、午前1か所・午後1か所を目安に見学地を選択し、モデルコースを作成する。
- ④ 7(クラス)×6(班)=42モデルコースを紹介し(実際は早くできた班は2,3通りのコースを作成したので、60ほどのモデルコースを作成した。), その中から重なりを調整し、印刷・配布する。

東京タワーなど、話題になっているものや誰でも知っているものが多かったが、生徒が多く希望しているものについては、学級別見学地の候補とすることで、より多様で、個々の生徒の興味・関心にふれる見学地の開拓を3年時に図ることとした。

(4) スローガンづくり

修学旅行のねらいを踏まえ、それを簡潔に示すものとして、スローガンを作成した。

- ① 一人一つ以上のスローガンを、そこに込めた願いも明記して、班で出し合い、優先順位をつけた。
- ② クラス代表者会で候補を絞り、決選投票をして決定した。
- ③ 学年集会で披露をし、入賞者には表彰を行った。

2007年修学旅行スローガン

「東京タワーよりでっかい思い出 それは僕らの未来形」

～中学校最後の思い出は絶対に最高のものにするという願いをこめて～

3年5組 N子作

- ④ 実行委員会でスローガン旗を作成し、学年集会や当日宿泊所などに掲示しておけるようにした。

(5) 係活動

新年度になり，新学級組織の編成とともに，修学旅行の組織作りを行った。2年生の自然体験活動での実践を踏まえ，修学旅行においても，全体計画・準備にかかわるものについては，有志による実行委員を募集し，班別活動については一人一役で組織を作っていた。また，学校生活での生徒会組織，学級組織，生活班を生かして日頃の活動との関連をもたせるようにした。

① 実行委員会を生かして＜各クラス，それぞれ5名程度＞

係	事前活動	当日または事後の活動
ライフ実行委員会 (生活委員会)	生活のきまり・持ち物， こづかい，宿泊・座席計画 ホテルマナー，食事計画とマナー，しおりの内容	反省会・反省記録 生活マナー 美化活動 健康観察
イベント実行委員会 (集会委員会)	学年集会，バスレクリエーションの計画準備，スローガン制作・記録計画，広報活動 しおりづくり	出発式・到着式，食事進行・バスレク実施，テレホンサービス，速報・新聞作り
ツアー実行委員会 (企画委員会)	学級別・班別見学計画 依頼状・班別費用 ディズニーランドでの活動の提案と決定	見学地紹介 お礼状・費用

② 一人一役で

係	事前活動	当日または事後の活動
班 長	各係の活動をつかむ・班別活動 計画作りの中心	班活動の中心・反省会 点呼・安全確認，携帯電話の管理
副班長	班長の補佐・テーマ質問事項の 検討・依頼状づくり	テーマに沿った活動，質問追究の実 践
時間係	時間計画・地図	時間管理・案内指示
予算係	費用算出・予算計画づくり	費用の管理
記録係	写真など班活動の記録をとる計 画	インスタントカメラの管理，写真撮 影・資料収集・新聞作り
保健係	食事・美化計画	健康観察・ごみ食事マナーチェック

(6) 実行委員会の活動

実行委員をはじめ各委員会を，教師が計画的・意図的に働きかけることによって，どんどん活動させる。その中で教えることは教え，考えさせることは生徒に考えさせ，生徒の意見・希望を採り入れることによって修学旅行に向けての自覚や期待感を持たせるように

した。

① ライフ実行委員会より

○ 服 装 夏の制服

○ 持ち物

- ・大バック（家庭にあるもの・自然教室で使ったものでよい） ・古中のサブバッグ
- ・筆記用具 ・着替え（2日分） ・雨具（折りたたみ傘） ・生徒手帳
- ・就寝時の服装（Tシャツやパジャマ） ・バスタオル（1枚） ・ティッシュ
- ・ハンカチ（2枚） ・しおりと計画表 ・ビニール袋3枚（ゴミと下足用）
- ・財布 ・時計（持っていける人・高価なものはさける） ・ガイドブック，路線地図
- ・常備薬（酔い止め，腹痛薬，かぜ薬など普段から使用し，必要な人は持参する）
- ・テレホンカード（各自1枚ずつ）
- ・レクリエーション用具（新幹線内のゲームとしてトランプ，ウノに限る）
- ・インスタントカメラは旅行後の記録用としてグループに1台を配付し，その現像やプリントは学校でする。
- ・歯ブラシ，シャンプー，リンス，石鹸，タオルは持っていってもよい。

※大バックは，【1日目】学校→旅館，【2日目】旅館→ホテル，【3日目】ホテル→学校と，搬送する。

※保険証については，後日健康調査の記入とともに，下の3つから選択する。

ア，保険証コピーを持参する イ，保険証（カード）を持参する ウ，実費で払う

○ 学年共通費用（新幹線、宿泊代、バス代など）

- ・これまでの積み立てを，新幹線，バス代等の交通費，宿泊代，共通の食事代，諸費用に当てる。

○ こづかい等

- ・おみやげ代8，000円＋班別費用＝12，000円まで
- ・3日間通してのおみやげ代や班別行動の入場料・交通費，東京ディズニーランド・班別行動での食事代として，各自予算を立てて，保護者に願います。署名捺印の上許可してもらう。

② イベント実行委員会より

○ 広報活動

●テレホンサービス（NTT伝言ダイヤルを利用した家庭への活動報告）

- ・6/25（月）（事前準備の様子と出発予定）
- ・6/26（火） 9時00分（出発の様子と今日の予定）
12時00分（午前の様子と午後の予定）
21時30分（1日目の様子と明日の予定）
- ・6/27（水） 8時00分（宿泊の様子と今日の予定）

●バス内の会(岐阜羽島駅より)

- 1 運転手さん・ガイドさんへのあいさつ
- 2 ガイドさんの話・諸注意 →バスレク

<到着20分前より>

- 3 反省・思い出に残る楽しかったこと
(クラス委員・各班副班長)
- 4 先生の話
- 5 運転手さん、ガイドさんへのお礼
- 6 ガイドさんの話

●終わりの会(体育館)

- 1 はじめの言葉
- 2 到着のあいさつ「ただいま帰りました」
<教頭先生の答礼>
- 3 校長先生のお話
- 4 学年主任の先生のお話(次の日の予定を含む)
- 5 実行副委員長の話
- 6 諸連絡
- 7 終わりの言葉(帰りのあいさつ「さようなら」を含む)

③ ツアー実行委員会

○ 見学地の決定と準備

- ディズニーランド行動計画
- 学級別見学地
- 班別行動見学地

○ 見学地紹介

ア 見学地についての紹介模造紙づくり

イ バスで次の見学地の見どころなどを紹介する

- ・国会 ・学級別見学地 ・月島周辺・もんじゃ焼き ・つたや・本郷界限
- ・浅草周辺 ・オリエンタルホテル・浦安界限 ・ディズニーランド

(7) 東京班別行動計画

① 資料の準備

テーマに迫り，観光に流れないように，資料を十分にそろえるようにした。

- ・東京散策乗り物ガイド(各自1冊)
- ・まっふるマガジン東京 ・るるぶ東京
- ・びあmap博物館・資料館 ・びあmap美術館・ギャラリー
- ・びあ食べ放題2007 ・東京はなまる食べ放題
- ・全国60大学人気メニュー「学食ガイド」など

合計して
一人一冊持て
るように

② 計画についてのアウトラインの確認

- ・学級の生活班をもとに男女別6～7人班を作って行動する。
- ・午前1か所，午後1か所は必ず訪問地を決める。

- ・訪問地は原則同じところは×（午前午後で異なるのは○）。予約をし、相手の施設の人に会って話を聞いたり、見学をしたり、体験をしたりできる所。
- ・基本は8：30「つたや」発→16：30「浅草5656会館」集合。
- ・各自2～3の案を出す。→班で話し合い、希望地・優先順位を決める→先生が予約をとり、決定する。
- ・希望が重なっているときは、テーマ・内容がしっかりしている班を優先する。
- ・昼食は班で事前に場所をしっかりと決め、1500円までの金額で計画する。

③ 係の決定と係会の開催→活動計画書の作成

係編成を行い、係会を開いて、班行動をするうえで調べて明らかにしなければならない内容を確認した。また、各班でテーマについて再検討し、見学地の活動内容・タイムテーブル・交通機関・地図・昼食場所・費用・写真計画などをそれぞれ計画書に記入し、事前準備を具体化した。

○ 班 長：全体計画表を作成する。

- ・計画全体の把握 ・点呼・健康観察のTPO 整列隊形
- ・新幹線・バスの班の座席位置 ・ディズニー本部の場所 ・班員の部屋番号
- ・班別行動の集合時間・場所 ・見学地の電話番号
- ・定時連絡・本部の電話番号 ・浅草5656会館の場所・集合時間

○ 副班長：副班長計画表を作成する

- ・2つの見学地のテーマ ・見学地でのあいさつ・質問事項・活動内容・記録
- ・見学地の電話番号

○ 時間係：時間計画表・地図を作成する

- ・班別行動の集合時間 ・駅から午前見学地までの地図
- ・駅から昼食地までの地図 ・駅から午後見学地の地図
- ・駅から浅草5656会館までの地図 ・交通機関と所要時間
- ・見学地に到着しなければならない時間 ・浅草5656会館集合時間

○ 予算係：予算計画表を作成する

- ・入場料・交通費、東京ディズニーランド・班別行動での食事代などを算出
- ・班員の予算計画表の原案の作成

○ 記録係：写真計画表を作成する

- ・写真撮影計画 ・写真撮影TPO ・活動記録 ・報告書作成準備

○ 保健係：健康観察表を作成する

- ・昼食地の場所 ・健康観察の内容・方法 ・交通機関での美化活動のTPO

④ 依頼状づくり

訪問先への依頼状を作成し、テーマ・訪問目的・質問事項・役割などを明らかにする。

※東京班別行動見学地一覧

班名	午前見学地	活動時間	午後見学地	活動時間
1-A	ソフマップ ハソコンデジタル館	11:00～12:00	東京ミッドタウン	14:00～15:00
1-B	地下鉄博物館	10:00～11:00	鉄道歴史展示室	13:00～14:30
1-C	野球博物館	10:00～11:00	テレビ 朝日	13:30～15:00
1-D	明治神宮	10:00～11:00	全日空メンテナンスセンター	13:00～14:30
1-E	日本科学未来館	10:00～11:00	国立東京博物館	14:10～15:30
1-F	浅草きびだんご あづま	9:00～10:00	日本テレビ	14:00～15:30
2-A	科学技術館	10:00～11:00	江戸東京博物館	13:30～14:30
2-B	目黒寄生虫館	9:15～11:15	MEGA WEB	13:00～14:00
2-C	東京都庁	10:00～11:00	ハナソニックセンター東京	14:00～15:00
2-D	トリックアート ギャラリー	10:00～11:00	池袋防災センター	13:00～15:30
2-E	品川区防災センター	9:00～10:00	東京タワー水族館	13:00～15:00
2-F	新宿御苑	9:15～11:35	東京都美術館	14:00～15:00
3-A	ハナソニックセンター東京	10:00～11:00	東京大学	13:30～14:30
3-B	アメ横商店街連合会	9:00～11:00	ソフマップ ハソコンデジタル館	14:00～15:00
3-C	読売新聞社	11:00～12:10	池袋防災センター	13:30～15:30
3-D	ワタリウム美術館	11:00～12:00	江戸下町伝統工芸館	13:00～14:00
3-E	忠犬ハチ公銅像維持会	9:30～10:30	蛇骨湯	12:00～15:00
3-F	トリックアート ギャラリー	9:50～11:20	東京タワー水族館	14:30～15:30
4-A	東京ドーム	11:00～12:00	最高裁判所	14:30～15:30
4-B	防衛庁市ヶ谷台ツアー	9:30～11:45	国立科学博物館	12:50～13:50
4-C	刀剣博物館	10:00～10:30	ソニー・エクスプローラサイエンス	13:30～14:30
4-D	SHISEIDO	11:00～12:00	科学技術館	13:30～15:00
4-E	品川区防災センター	9:00～10:00	上野動物園	13:00～14:00
4-F	NHKスタジオパーク	10:00～11:00	サンシャインシティ水族館	13:30～14:30
5-A	ソニー・エクスプローラサイエンス	10:00～11:00	日本サッカーミュージアム	14:00～15:00
5-B	秋葉原クロスフィールド	10:30～11:30	日本科学未来館	13:30～14:30
5-C	日本科学未来館	10:00～11:00	江戸下町伝統工芸館	13:00～14:00
5-D	サンシャイン国際水族館	10:00～11:00	めがねの博物館	13:30～14:30
5-E	上野動物園	10:00～11:30	東京国立博物館	14:45～15:15
5-F	東京都水の科学館	10:00～11:00	麦酒記念館	13:30～15:00
6-A	東京大学	10:00～11:00	全日空メンテナンスセンター	13:00～14:30
6-B	目黒寄生虫館	10:00～11:00	東京都水の科学館	13:30～14:30
6-C	スポーツ博物館	10:00～11:00	東京都庁	13:30～14:30
6-D	東京都庁	9:30～10:30	明治神宮	13:30～14:30
6-E	東京大神宮	9:20～10:20	たばこと塩の博物館	13:30～14:30
6-F	浜離宮恩寵庭園	10:00～11:00	SHISEIDO	13:30～14:30
7-A	ヨドバシカメラ	10:00～10:30	相田みつを美術館	14:00～15:00
7-B	日本テレビ	11:00～12:30	東京ドーム	14:00～15:00
7-C	江戸東京博物館	10:00～10:45	スポーツ博物館	13:30～14:30
7-D	相田みつを美術館	9:00～11:30	六本木ヒルズ	12:00～12:30
7-E	靖国神社	9:20～10:30	NHKスタジオパーク	13:30～14:30
7-F	ワタリウム美術館	11:00～11:40	たばこと塩の博物館	13:30～14:30

(8) 集合・点呼，新幹線乗降練習

7クラス260名を超える学年であり，母集団が大きいので，意思の伝達・徹底や安全面も含めてポイントとなる場面での集団の動きがとても大切である。学年集会で，クラス・班隊形での整列点呼の仕方と新幹線の乗降についての確認を行った。実際，新幹線を利用するに当たって乗降する岐阜羽島駅では，3分しか停車時間がない。体育館にイスを並べて整列隊形や乗車の手順を確認した。当日これがたいへん役立った。



(9) 家庭との連携

① 情宣活動

- ア 学年通信による活動紹介（随時）
- イ 学年懇談会での概要説明（4月）
- ウ 修学旅行だより（随時）
- エ メール配信，ボイスボックスによるテレホンサービス（当日）

② 健康調査（養護教諭より）

- ア 健康調査とアレルギー調査
- イ 保険証の扱い

③ 修学旅行費

- ・ 学年懇談会，進路説明会，保護者会，家庭訪問等による未納保護者への働きかけ
→前日までに全員が参加できることに。

6 当日の取り組みの様子から

(1) 当日の動き

<1日目>

① 出発式・バス内ST

前日からの雨の影響でグラウンドが使えず，出発式を中止し，バス内集合・点呼。バスでの短学活にて修学旅行スタート。

267名中，不登校生徒3名を除く264名での活動になった。

② 新幹線乗車

新幹線を待つ間に全体で確認や健康観察などを行う。

3分しか停車しない岐阜羽島駅。練習の成果が十分出て，1分余りで乗車できた。

旅行業者が驚くほどであった。

③ 国会見学

通常国会が延長され，会期末の国会を訪問することとなった。議員会館での昼食のあ



と、衆議院の見学を行う。部活動のけがで車いすの生徒が1名いたが、クラスの仲間や委託した看護師が付き添い、うまく対応することができた。

午後の学級別行動によるクラス見学順を考えていたが、たいへん混んでおり、こちらの都合のよいようには動けなかった。参議院議員選挙を控え緊張感のある国会にふれることができた。



④ 学級別見学

2組	3組	6組	1組	4組	5組	7組
上野 動物園	上野 動物園	東京 タワー	東京都水 の科学館	東京 タワー	葛西臨海 水族館	本所 防災館
14:30	14:30	14:15	14:30	14:15	14:45	15:30
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
16:00	16:00	15:30	15:30	15:30	16:15	17:00
フジ テレビ	江戸東京 博物館	フジ テレビ	上野 動物園	葛西臨海 水族館	東京 タワー	お台場 散策
16:30	16:15	15:45	16:00	16:00	16:45	17:30
↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓
17:30	17:30	16:45	17:15	17:00	18:00	18:00
月島もんじゃストリート						
海鮮 けい	近どう 本店	大江戸 坂井	はざま 支店	てまり	おかめ ひょっとこ	たんぽぽ めぐみ



⑤ 月島もんじゃストリート



クラスごとに月島もんじゃ振興会協同組合加盟のもんじゃ焼き屋さんを一軒ずつ紹介してもらい、みんなでもんじゃ焼きをつくり夕食を食べた。料金とメニューをそろえられ、学級別行動のしめくくりとして、みんなで和気あいあいとても楽しい時間を過ごせた。好き嫌いもほとんど気にせず、作り方を教えて

くれる店の人の対応・サービスもよく、どのクラスもよく食べ、盛り上がり、好評であった。



生徒作文

T男

僕たちは一日目の夜、もんじゃ焼きを食べました。味には海鮮やカレーなどいろいろな味がありとてもおいしかったです。もんじゃ焼きをつくったとき液を具で作った輪の中に入れることがむずかしく、一番苦労しました。店の中はとてもにぎやかで楽しく食べられました。ある人がものすごい量食べていたので驚きました。クラスもとても盛り上がり、そして何よりももんじゃ焼きがおいしかったので、またこのクラスで食べにいらなと思いました。

⑥ 旅館つたやにて



生徒作文

Y男

修学旅行に慣れてきた頃、僕らは、「つたや」という旅館に泊まりました。僕は11人部屋でした。部屋の中ではトランプをしたり、話をしたりして楽しむことができました。夜遅くまで話していて先生に怒られたりもしました。また、シャワーが出なくなったりしたハプニングもありましたが、それも含めて友達と時間を共有できたことなど、この旅館「つたや」でとてもたくさんの思い出をつくることができました。

<2日目>

⑦ 東京班別行動



生徒作文

N子

二日目の班別行動で、わたしたちの班は科学技術館へ行きました。ここでは、地震や車の運転をゲーム感覚で体験したり、ロボットと話したり、楽しく過ごせました。特に地震と耐震を経験したところでは、技術館の方の説明を受けて、高層ビルでは水タンクを利用して揺れを少なくしていると知り、驚きました。

この班別行動は、貴重な体験もし、よい思い出になりました。

生徒作文

O子

私たちは、渋谷と六本木に行きました。どちらも予定時間ギリギリに到着し、精神的にも肉体的にもとても疲れました。見学先のたばこ塩の博物館ではしっかりと学ぶことができました。また、大きな六本木の町を短い時間でしたが充実して学ぶことができました。しっかりと事前計画をしてのぞんだのに、東京の町はとても大きかったです。活動していて思ったのですが、自転車ください。

班別行動では、それぞれの見学終了後、地区担当の先生へ入れるはずの連絡がうまく入れられなかった班があった。単純な忘れによるものもあったが、時間の読みが甘く、移動に迫られてかけられなかったものが多かった。しかし、生徒たち自身の力で夕方、浅草に全員が無事集合することができた。

訪問先からの心配・苦情などがなかったのはよかった。

⑧ 浅草雷 5656 会館



生徒作文

M子

2日目の夜、クラス委員の劇「シンデレラ」から始まった5656会館での演劇。M君ふんするシンデレラには多くの人が大爆笑させられました。

そして次は、ほとんどの人が生で見るのは初めての落語。一枚のハンカチと扇子だけで表現するところに驚かされました。ほかにもパントマイムやジャグリングなどを見せてくださり、みんなで楽しい時間が過ごせました。

⑨ オリエンタルホテル東京ベイにて



2～5人部屋に分かれて洋室での宿泊。

カードキーやシャワーカーテンなどの使用についても事前に説明しており、問題なく過ごすことができた。ホテルも修学旅行生に慣れており、同宿の学校・一般客とのトラブルもなかった。

< 3日目 >

⑩ 速報づくり



実行委員によって仲間の活動やがんばりを知らせる新聞づくりを行った。作る時間は限られているので、学校でレイアウトや内容をできるだけ準備して、分担を決めて作成するようにした。学級、班で動いていることが多いので、他の生徒にとっては、他の仲間の活動やがんばりを知る機会となった。

⑪ テレフォンサービス

これも、生徒の家族に対して、自分たちの現状を報告して、不必要な連絡や心配をかけることなく、離れていてもつながっていることを意識させるために行っている。速報と同じく、学校である程度内容を準備して、分担を決めて行った。生徒は当日の体験や感想をうまく織り込んで、保護者へのメッセージを録音していた。

⑫ ディズニーランドにて



生徒作文

Y子

私が一番楽しみにしていたディズニーランド。六つのアトラクションにはいることができました。大好きなスティッチもあちこちにいて、うれしくて得した気分でした。白雪姫では、係員が戻ってくる人に「ご無事でしたか？」と聞いてきたのでドキドキしました。コーヒーカップでは、回しすぎてみんなふらふらになりました。たくさんのおみやげと友達との最高の思い出ができました。

計画通りにディズニーランドでの活動を行い、全ての日程をこなすことができた。

⑬ バス内レクリエーション



生徒作文

T子

私がクラスの人々と過ごした時間の中で一番楽しかったのは、帰りのバスの中でした。バスに乗った直後は絶対に寝てしまうと思っていたのに、司会のために前に立つとみんなのテンションの高さにびっくり。私の眠気もふっとんでしまいました。バス内の会が終わると、王様ゲームやカラオケ大会で盛り上がり、古中についたのが予定よりも遅かったこともことも気づかないくらいとても楽しい時間でした。

⑭ 到着式



新幹線にも予定通り乗車し、定刻に岐阜羽島駅に到着した。帰り道、名神高速道路の事故で渋滞し、学校到着時刻が40分ほど遅れた。メール配信・ボイスボックスにて出迎えの保護者への連絡を行った。

(2) 事後活動

① 作文・アンケート

個々に作文、アンケートに取り組み、反省を行った（結果は次項に示す）。

② 報告書づくり

班単位で見学地で学んだことを、写真や持ち帰った資料を利用して報告書（模造紙）を作成し、掲示して情報交換を行った。

③ 礼状づくり

班別行動でお世話になった訪問先に、礼状を書き写真を1枚添えて送付した。



副班長が担当であるが、全員が一文ずつ感想を書いて謝意を表すことができた。

7 修学旅行の取り組みの振り返りから

(1) 教師

- ① 実施日が1学期の終盤であったために、4月からの活動時間が確保でき、しっかりと試行錯誤する時間や事前準備ができる余地があったのはよかった。ただ、生徒に教えたり、考えさせたり、主体的を求めようとする時間がなかなかない。教師間の共通理解を大切に、生徒のできる範囲の活動を計画・実施する必要がある。また、学期末の活動と修学旅行のまとめの活動が重なり、十分に事後の活動時間が確保できなかった。2学期の学習にうまくつなげていきたい。
- ② 訪問地でのあいさつが控えめであったことや、受け身の姿勢で指示されないと動けず、体験先の方から指摘を受けた1年生の福祉体験・2年生の自然教室。その反省を生かした取り組みが生きた。質問事項やマナーなどの点で教師側の押さえや生徒の意識がきちんとできていた。また、係活動なども自然教室での経験が生きており、生徒がしっかりと役割に取り組んでいた。報告書などもしっかりとしたものができており、準備・計画実践・事後のまとめという一連の流れも定着していた。
- ③ 忘れ物が多く、持ち物などの管理、サポートしてもらえていることへの感謝、物を大切にする心を継続的に育てることの必要性を痛感した。
- ④ 一日目終了時の職員打ち合わせで、折々の集合時間に遅れてくる者がいることが話題となった。時間に対する意識の徹底が求められる。集団での話を聞く姿勢も含め、人との関わりの中で成長するための基本的な生活習慣として本校が大切にしている点でもあるので、継続して働きかけをしていきたい。
- ⑤ 宿泊を伴う活動であるため、食事・アレルギーなどの持病・体質などについて、きめ細かく対応しなければならないことが増えている。ブラジル国籍の生徒が2名おり、旅館での風呂・食事など生活習慣の違いから配慮しなければならないこともあった。個人情報など家庭との連絡・情報の管理なども慎重に扱うことが求められている。
- ⑥ 費用については2年までに60,000円の積み立てを行い、53,870円の支出で想定範囲であった。一部保護者の未払いでなにかと気を遣わねばならなかった。

(2) 生徒

- ① 生徒感想「修学旅行をふり返って成長した自分～自分探し」より
○人の意見を聞いたり、自分の考えが本当に正しいのか確かめたりすることができた。
一番効率のよい方法を考えたり、時間を意識した行動ができるようになったりした。
○電車に乗るときにいつも人にたよっていたのですが、自分でも時刻表を見るようになった。電車の乗り換え、方面、乗る電車など、電車の乗り方が分かるようになった。
○ちょっとは気が利くようになった気がする。盛り上げるときは自分から楽しまなきゃいけないことが分かったし、みんながいることがいいと思った。多くの人のよいとこ

ろを見つけることができた。

○みんなをしっかりと引っ張ろうと思うばかりに、みんなの気持ちをしっかりと考えてあげることができなかった。

○東京に行っていていろいろなことが学べました。通りすがりの人とか外国の人としゃべることができました。前までは恥ずかしくてしゃべることができなかったけれど、話す機会ができました。

② アンケート結果

◎：よくできた ○：できた ×：できなかった (人)

	評 価 内 容	◎	○	×
公衆道徳 集団行動	① 集団行動のルールを守り学年の輪・友達の輪を大切にすることができました。	170	88	2
	② 集団行動の中で、時間を守ったり、マナーに心がけたりすることの大切さを学ぶことができました。	156	102	2
	③ 公衆道徳を守って活動し、社会体験を深めることができました。	150	104	4
人との 関わり	④ 積極的にさまざまな人と関わり、社会に対する見方を深めることができました。	97	143	18
	⑤ 仲間と体験活動に取り組み、協力し合って目標を達成することの大切さを学ぶことができました。	163	89	6
	⑥ 友達や班員を気遣い、思いやりを持って活動できました。	150	98	9
	⑦ 班別学習の中で、互いのよさを見つけ、共に生活することの大切さを、学ぶことができました。	129	119	7
社会的な 視野	⑧ 班別活動では、首都東京のさまざまな機能について学習を深めることができました。	138	115	6
	⑨ 仲間と協力しながら、班別学習に取り組み、社会的な視野を広げることができました。	150	103	7

(3) 校長通信 No. 10より

後日、学校長より下記のようなメッセージを受けたので、学年通信やまとめの学年集会において、1学期のがんばりとして、また、現在の自分達の大切にしたい姿として紹介し、評価した。

□ 修学旅行で見た古中生の輝き・・・6月26日～6月28日



- 1 新幹線に乗車中、いろいろな話や簡単なゲームで、班の仲間と明るく和やかに過ごす工夫をする古中生
 - 2 多くの生徒が休んでいる時に、時間を見つけボイスボックスにメッセージを入れたり、1日の体験を大型紙に書き込んで旅館やホテルに掲示する古中生
 - 3 バスの中でリクエストに応じて部分的にしか知らない歌でも、いやがらずに歌う古中生（大変な盛り上がり。バス酔いを防ぐ効果も）
 - 4 けがをして参加した生徒と常に行動を同じくして、最後まで世話をした古中生
 - 5 朝・昼・晩の食事のたびに、旺盛な食欲で好き嫌いをなく、元気に食べる古中生
 - 6 班行動で、仲間がはぐれないように気を配り、時には仲間を注意して活動する古中生
 - 7 家族へのおみやげを適切な時間と場所で、計画的に購入する古中生
 - 8 旅行中の失敗を素直に認め、気持ちをきちんと整理して、次の行動に生かす古中生
 - 9 おとなしく自立たなくても、最初から最後まで仲間迷惑をかけずに行動する古中生
 - 10 ゴミ集めや整理整頓を、誰に言われるわけでもなく、自然体で実行する古中生
 - 11 集合時刻や活動時間を意識して行動し、300人近い大集団に迷惑をかけない古中生
 - 12 引率する教師の指示や注意事項に、耳を傾け、良く聞き分け、活動に生かす古中生
 - 13 待ち時間をうまく利用して、翌週の課題プリントをやったり、大声を上げずにトランプに興じたりする古中生
 - 14 係の仕事を意識して、行程の随所で、責任ある仕事をする古中生
 - 15 速やかに秩序良く、見事なまでに新幹線の乗降を行った古中生（添乗員も感嘆）
- ◎ そして何よりも、大きな事故や事件、そして大けがをすることなく、全員で活動することのできた古中生
 そんな一人一人の小さな、しかし人として大切な行動の総和が、修学旅行をよいものに作り上げたと考えます。



8 事後の生徒の変容

修学旅行を終えて、自分たちの力でしっかり準備し、みんなで大都市東京を見聞できた自信から、生徒は、学校を中心として、その後のさまざまな活動に一層積極的に取り組んでいる。部活動では、後輩たちをリードし、最後の夏の大会に粘り強く取り組み、地区大会を勝ち抜き、陸上競技部・ハンドボール部を中心に、東海大会、県大会で活躍した。秋の資源回収では、各自が担当の地区に案内状を配付し、地域の一員として、残暑の厳しい中、回収作業に根気よく取り組むことができた。体育大会では、練習・当日・片付けなどの活動を通して、最後まで落ち着いて自分の競技や学年の競技などに取り組むことができた。

2学期の総合学習は、「自分の夢に向かう」をテーマに、現在「夢レポート」として、自分の夢を考え、夢となる職業をインタビューなどを交えて調べ、人生設計を行っている。

Ⅲ 終わりに

生徒同士で、「修学旅行もう一度行きたいね。」と話しているのを聞くと、いろいろ準備し、苦労した甲斐があった。生徒は、長期間の活動をよくやり遂げ、がんばった。修学旅行一つをとってみても独創的で、より充実した活動を目指していくと、よりいっそう時間が必要になる。まるで行事のための学校生活のような感があり、時間の確保と共に、方法をたえず検討する必要がある。

生徒の感想を見ると、修学旅行を通して、本では知り得なかったことを数多く学び、貴重な経験ができたという感想が多かった。一人一人が役割を持って参加できることで、活動への関心も高まり、実行委員やリーダーが積極的に種々の活動に取り組んでいる様子は、他の生徒にとって何より意欲を高めるものでもあるようだ。また、1年生の福祉体験、2年生の職業体験の時の一歩引いた姿勢から見ると、反省を生かし、人との関わりの中で、自分たちの思いを一生懸命に伝えようとしている姿が印象的で、成長が見られた。

主体的に人と関わり、自己の生き方を見つめ、考える修学旅行を目指して取り組んできたが、体験を通して、自分を見つめ、生活に生かしたり、他人や地域社会のために協力したりする生徒が増えてきているのはうれしいことである。強制されてやるのではなく、誰にでもできるこ



とから、自分たちの形で一步步積み上げていく。進路学習や部活動・資源回収といった分野でも「やれることをやってみよう」という姿勢が広がっている。自分から働きかければ事態は動き始めるということが見えてきたように思う。

活動全体を振り返ってみると、学校での日々の活動の中に大切なことがあるように感じる。自分たちの生活の課題と向き合いながら、

何をすべきかを生徒と共に一緒に見つめていなければと思う。行事は毎日の生活の延長上にある。日々培った力を場所をかえて試してみるのである。当たり前の活動の中にこそ、生徒の主体性を育てるポイントがある。また活動に取り組めば取り組むほど、生徒と教師あるいは生徒同士、あるいは地域の人々との人間関係に踏み込んでいくことができ、やればやっただけ響く楽しさがある。そういう意味で、今後も教師側が長期的な視野を持って、組織的に指導していきたい。学校内外の行事についての位置づけ、他教科との関連をさらに確立していく必要を感じる。地域性や学校の独自性を大切にしながら柔軟に且つ重点的に行っていきたい。伸びゆく可能性を秘めた生徒たちに、自らを見つめ、人間としての生き方を探求する場と機会を一層与えてやることが急務である。

これからも修学旅行の充実に励み、教師と生徒の創意工夫から未来を拓いていく力を生み出していきたい。